

ニュースレター (vol. 15)

平成28年 1月発行

NPO 法人あきた菜の花ネットワーク

〒015-0411 秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下 466-3
鳥海山麓地区総合案内所内

TEL : 0184-44-8625 FAX : 0184-44-8765

E-mail : tetsu1187pure@yahoo.co.jp



新たな年が始まりましたが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。どうぞ本年もよろしくお願ひいたします。新年を迎えたかと思えばもう2月…。気が付けば菜の花が咲き誇り、半年が過ぎ、そして1年あっという間に過ぎそうな気がします。さて、早速ですが下記 菜の花ネットワーク主な活動の報告です。

◎「収穫体験ツアー in 鳥海高原」開催



平成27年8月29日、鳥海高原の桃野地区の畑にて収穫体験ツアーを行いました。鳥海高原産のとうもろこしやじゃがいもを袋いっぱい詰める参加者の皆さん！そして菜種を手作業で撒いたのですが、「まっすぐ、まっすぐ」と言いながら歩いているのになぜか後半曲がっていく方が多数いました。一番鳥海山に近い一角ですが、どのような姿になるのか楽



しみになっています。

「この畑で収穫した野菜が美味しくて、また鳥海高原に来ました」との声もいただきました。この言葉を力に、菜の花から農業・地域を元気にしていけたらと気持ちを新たにしました。

◎「スノートレッキングツアー2016」開催

平成28年1月16日(土)に鳥海高原 南由利原スノーモビルランドにてスノートレッキングツアーを開催しました。昨年より始めたイベントですが、2016年も行います！

当日は時折吹雪く時もありましたが比較的穏やかな天候でした。16名の参加者の皆さんが元気に鳥海高原を駆け回りました。スノーモビルランドのインストラクターの優しく丁寧な説明の後に、コースに出てスノーモビルの実走！「行ってきます」と言ってすぐ森に消えるインストラクター運転のモビル(後ろに参加者が乗ります)、ゆっくり周遊する参加者自ら運転のモビル、それぞれ自分のペースに合わせて体験していました。



モビルの後はスノーシューを装備してのスノートレッキング！昨年も少ない方でしたが、今年はさらに少ない積雪となりました。皆さん冬の景色を楽しみながら歩いていました。お昼は菜の花ネットワーク特製？きりたんぼ鍋♪冷えた体が温まったようでよかったです。



鳥海高原スノートレッキングツアーは2月13日(土)、3月12日(土)にも開催します。参加希望の方は事務局へご連絡ください。冬の鳥海高原を体感してください！

<ニュースレター新企画

「この人に聞く！」（第14回）>

あきた菜の花ネットワークの事務局メンバーが、秋田を元気にするため日々奮闘している方からお話を伺い、先進的・独創的な取り組みやアイデアを学ぶと共に、会員の皆様にお伝えします。第14回目は、秋田県大仙市の工藤修さんです。

農事組合法人たねっこのある大仙市協和小種地区では、以前からさかんに営農が行われていましたが、後継者の不足や高齢化などの問題が見えていました。そこで工藤さんを中心に、5集落・約130戸の農家が一つになり集落営農を行うため「農事組合法人たねっこ」を立ち上げました。

今回は立ち上げの経緯を中心にお話を伺いました。



「若い担い手を育て、新たな経営戦略にチャレンジ！」

工藤 修 さん（農事組合法人 たねっこ 代表理事）

○ネットワーク事務局（以下、事務局）：

まずは簡単に自己紹介をお願いします。

○工藤修さん（以下、工藤さん）：

昭和26年9月5日生まれ、64歳です。地元の神岡高等農業学校を卒業後、福島の専門学校へ進学し、畜産を学びました。進学理由は叔父が畜産業だったこともあり、興味があったからです。茨城で研修をしたのち、家から呼び戻される形で21歳の時に秋田に戻りました。

○事務局：

呼び戻される形でとのことですが、家を継ぐ（戻る）ということに抵抗はありましたか。

○工藤さん：

その当時は長男が跡を継ぐというのが普通で特に何とも思わなかったです。嫌だとかはなかったし、他に何かする度胸もなかったので戻りました。農業をしていたので、そのまま家を継ぐ形で引き継ぎました。当時は3町歩の水田と1町歩の畑がありましたが、これで食べていけたことも大きかったです。家に戻ったころは水田を買っても借金を返せていました。米、野菜、葉タバコ、花卉を作り、30代頃になって面積を増やしました。

30~40代が米作りのピークだったと思います。

その後減反があった時に、国の政策だから仕方ないけれど、自分のところで作れないジレンマがありました。

○事務局：

その時のジレンマがあり、たねっこ設立のきっかけとなったのですか。

○工藤さん：

平成15年に基盤整備や米価も下がってきてこれからどうするのかとなりました。田んぼは立派になったけれど、誰がやるのか、これから何として守っていくのかと。それがきっかけでたねっこを立ち上げました。130人の組合員も問題意識はありました。平成16年に研修をして、平成17年に任意団体でスタートしようと思いましたが、任意だとダメだろうと法人化してスタートしました。そして野菜の加工センターも開設しましたが、まず物がなくてはできないです。給食加工に必要な数量は把握しているので、これからどんどん対応はできると思います。加工はこれから増えていくと思っていますので、品目を絞るとかロット数確保するとか、何かしらしないといけ

ないとは思っています。

○事務局：

5集落130人の組合員とのことですが、どのようにまとめてきましたか。

○工藤さん：

確かにスタート当初は組織化にすることへ抵抗のある人や必要性に対する意見など様々ありました。

協和町時代に農業委員をしていた時から口も足も出して活動していましたが、欲とか野望とかはなくて、でもこの小種に企業誘致できる訳でもないから、集落でできることを儲けとか考えず、しようとして進めました。皆で集まったその場で何かお願いすることはしないようにしていました。ただお酒を飲むだけです。酒席での情報を交換し合えば、上から下へと世代へ情報を受け継いでいく場にもなります。ただの“酒飲み”ではないですよ。ずっと続けてこれたのは、こうして人づてに情報が入ってきたおかげだと思います。

○事務局：

たねっこの将来について思うことはありますか。

○工藤さん：

米価が下がる中、米だけではなく畑作なども力を入れてきたが、やっぱり若い人が終身雇用でやっていくためには畑作などもしなくては行けないと感じています。半年雪で埋まる田んぼだけではきつい。それ以外の時期に何もしない訳にはいかないです。そのためには米以外も必要と考えています。

自分が若い人材を育てればあとは若い者が何とかするだろうと思います。指導に関しては自分でなくても組合員の中で教えてくれる人がいる訳です。経歴ではなく、経験で頑張ってもらいたいと思います。経歴は関係ないです。

たねっこでは難儀だからと辞めた人が1人も

いないです。平成26年の田植えの時期から、秋田県立大学の学生が1人研修しています。たぶん続かないだろうと思っていましたが、何とかうちで続けていきたいと言ってきました。職場の環境も良くて上下関係もなく、仲はいいと思います。仕事が終わっても何か話している姿を見かけます。

大規模な農地を守っていくためにはやっぱり若い人を育てていかないとダメ。法人でも個人でも同じです。若い人が根付いている、定着しているところはいい結果が出ていることが証拠です。

○事務局：

本日は本当にありがとうございました。



☆☆☆【事務局所感】お話を伺って☆☆☆

・まずたねっこさんの前に広がる田んぼに圧倒されました。この広大な農地にあった営農する側の問題を解決し、後継者の育成や農機具の共同利用によるコスト削減などに取り組んでいました。さらに野菜の加工部を設立して周年の販売を目指していました。地元の子供たちとも体験学習を行うなどして、地域活性化に繋がることをたくさん伺うことができました。

全国各地から視察に訪れる理由がわかった取材となりました。（鈴木加代子）



県道から菜の花を

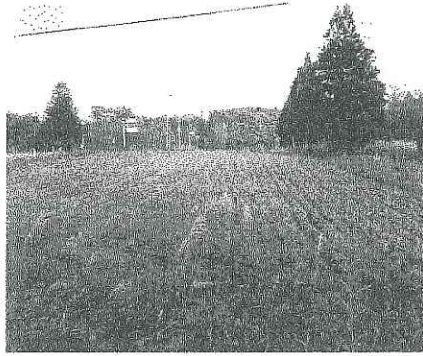
(菜の花で農業・農村を元気に)

NPO法人あきた菜の花ネットワーク 鈴木 木 秀 雄

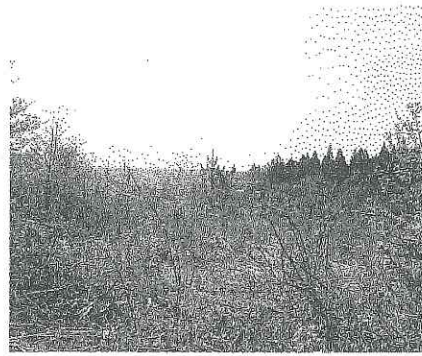
NPO法人あきた菜の花ネットワークは、今年度、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用し、東由利原の耕作放棄地を再生させる事業を行いました。その背景には、本法人の趣旨である「菜の花から秋田県の農業・農村を元気に！」という思いとともに、連作が難しい菜の花の圃場を拡大し、安定した数量を確保するという目的もありました。

ですが最大の目的は県道から直接菜の花が見えるようにしたかったからです。5月末に「鳥海高原菜の花まつり」を矢島町桃野で開催していますが、会場が県道から奥に入っているため、県道を偶然通りかかった方は菜の花を見る事ができません。県道から見れば偶然通った方も菜の花畑をご覧になることになり、興味を持っていただけると思えました。

今回の農地再生では、多くの課題がありました。10年以上耕作放棄されていた影響で立木が多く、また鳥海山の近くということもあり石が大量に散乱しており、作業



事業実施後



事業実施前

は困難を極めました。また一部を除いて赤土や粘土層が広がり土壌の再生にも時間がかかる見込みです。

また、既に再生した農地の一部は、2年前から鳥海高原において由利本荘市と秋田市の歩こう会の方に参加いただいて、ウォーキングツアーと、とうもろこしなどの野菜の収穫体験を行っており、「鳥海高原のファンになった！」という声にもふれています。耕作放棄地の再生が、農業、スポーツ、観光という分野の融合につながったというわけです。

今後は、菜の花はもちろん、蕎麦、とうもろこし、ジャガイモ、たまねぎの安定生産と栽培技術の向上を目指したいと考えています。特にたまねぎに力を注ぎ、お店に地元産のたまねぎがたくさん並ぶようにしたいと思います。

由利本荘市「農業委員会だより1月発行第19号」に掲載



◎「第7回鳥海高原菜の花まつり」開催（会場：由利本荘市矢島町桃野・南由利原）

平成28年5月17日（火）～5月27日（金）第7回鳥海高原菜の花まつりを開催いたします。イベント日は平成27年5月21日（土）、5月22日（日）となっています。今年は例年より早めの開催となります。ぜひ菜の花畑へお越しください！（イベント等の詳細が決まり次第まつりのホームページで案内します）

◎ニュースレターの原稿を募集します！！

ニュースレターの発行にあたり、会員の皆様からの原稿を募集いたします。会員に伝えたいことや活動の告知、また情報を得たいこと等をニュースレターを活用して発信・募集してみませんか？FAX、メール、手紙…原稿の送信方法はお任せいたします。皆様からの原稿をお待ちしております。

＜編集後記＞

○由利本荘市の農業委員会広報誌に載った鈴木専務理事。嬉しそうにニコニコしながら広報誌を手にし「ニュースレターの原稿として載せてくれ！」と…。またメディアに掲載された際には皆様にご報告できればと思います。そして会員の皆様も、同じように広報誌や新聞等に日頃の活動を掲載された場合には、ぜひ事務局までご連絡ください。ニュースレターでも掲載したいと思います。よろしく願いいたします。（鈴木加代子）